

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101
------	-----

自己評価

学校教育目標	・障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身につけ、社会に貢献できる児童生徒を育成する。
評価する領域・分野	進路支援部「進路指導」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>全アンケート71項目中、進路に関する4項目（生徒アンケート2項目（No.10、24）、保護者等アンケート2項目（No.11、28））について、A、Bを合わせた回答の割合が75%以上で、Eの回答の割合も25%以下となっており、生徒及び保護者等ともに、進路支援に関して一定の理解を得ることができている。保護者等アンケートの11の項目について、A、Bを合わせた回答の割合が前年比-7%となっている。これを受け、情報発信の部分について、さらなる改善を図っていききたい。</p> <p>具体的には、懇談等や会報において、関係機関の役割やサービスについての情報発信を行うとともに、関係機関を招いての講話や研修等を通して、丁寧な説明を繰り返し行っていくことで、関係機関についての理解を深め、必要な支援を適切に受けられるよう周知を図りたい。また、定期発行している会報や各学部の進路行事についての記事をHPに掲載することで、さらなる情報発信や取り組みに関する周知を図りたい。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のニーズを踏まえた進路支援の充実。 ・関係機関との連携及び、進路実現に向けた計画的・組織的な支援の推進。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援部員を中心に、外部機関と連携することはもとより、学校全体から進路に関する情報を収集するとともに、担任と相互に情報を共有し、個々の生徒の日頃の進路指導に活用する。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者、職員への情報提供。 ・関係諸機関との連携と生徒の希望に即した進路開拓。 ・望ましい勤労観・職業観の育成。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の進路実現までの支援を生徒自身と共有し、関係機関と連携して、適切な情報提供をすることができたか。また、実習や見学等を通して生徒が具体的な進路希望とその見通しをもてたか。 ・日頃からの支援をもとに、社会人としてのソーシャルスキルを身に付けることができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な希望調査と時機をとらえた個別懇談の実施。 ・進路だよりの発行と進路相談室の資料の整理、進路コーナーの活用。 ・進路の選択及び決定についての意識向上に資する取組（インターンシップ、福祉施設見学、職場体験、キャリア発表会、先輩の話聞く会、校内作業実習、現場実習、企業内作業学習、外部模試等）に向けた準備と実施、それを受けての結果と自己評価、目標設定までを含めた進路支援の実施。 ・障がい者就労支援機関との連携による迅速な求人情報把握と就労支援。 ・適切な進路選択を目的とした、治療院との連携による実践的な理療経営学の授業展開。
評価の視点	評価
① 一人一人の生徒の実態にあったキャリア教育と進路希望の実現	A B C D
② キャリア教育の推進による、自己の伸長と主体的な進路選択	A B C D
③ 常に新しい情報を把握した上での効果的な情報発信。	A B C D
成果・課題	総合評価
○今年度についても、進路関係機関と連携を取りながら、進路支援を行うとともに、懇談や実習を必要に応じて繰り返し行い、主体的な進路選択に結び付く支援を行うことができた。 ▲関係機関とその役割について、引き続き生徒への情報発信を行っていく。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な進路選択へと結びつける支援を維持強化しながら、関係機関と連携し、ニーズをとらえた適切な情報提供を行う。 ・懇談や進路関係行事、通信等を通じて、児童生徒への発達段階に応じた丁寧な説明を行っていく。また、取り組みや通信について、HPへの掲載を行い、さらなる情報発信を行っていく。

学校関係者評価 （令和5年6月22日、同年11月3日、令和6年1月31日実施）

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・理療業界では晴眼者の就業が増え、視覚障がい者の就職が難しい状況にある。本科保健理療科や専攻科理療科を卒業後の様々な進路選択の可能性について生徒に情報発信してほしい。また、盲学校の進路として理療以外を検討していく時期に来ているのではないかと検討していく必要を感じる。
-----------	---